

平成30年度  
社会福祉法人淳邦会 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール

デイサービスセンター オパール

オパール居宅介護支援事業所

福田高齢者支援サブセンター

グループホーム ひなぎく

育成推進室

## 平成 30 年度 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者の日常生活の場として施設サービス計画に沿っての生活の援助を行うことができた。利用者の個々の訴えをできるだけ尊重した援助を行うと共に、ご家族と連携を行い一時帰宅などの個別対応も行うことができた。

また看取りの対応として職種間の連携を行い、日々の状態把握・情報収集を行い、ご家族が希望される形で行うことができた。

### ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

法人による出前講座（ふくふく堂）の開催を行った。30年度は地域の行事が中止になることも多く地域の方との交流があまりできなかった。また、社会貢献活動に対しては具体的に取り組むことが出来なかったのが今後の課題の一つである。

ショートステイの受け入れについては、緊急での他施設入所者の受け入れに対して円滑に対応することができた。

### ・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修を行い職員の専門的知識のレベルアップを図ることが出来た。一方で、外部研修に参加する機会が減少したため、他の施設で行っている取り組みなど学べる機会が減ってきている。

実習生を受け入れることで、実習生担当になった職員も実習生の対応や反省会などを通してともに成長することができた。

### ・人が活きる職場環境を整備する

職場環境の改善を目的として職員に対するアンケートを行い、働き甲斐のある職場環境整備に努めた。

### ・安定した経営を継続する

退所者数は 29 年度に比べ減少し、また入院日数も減少したこともあり、稼働率は 29 年度に比べ 0.1%上昇し 94.5%となったが、目標の稼働率 95%を達成することが出来なかった。

ショートステイは、新規利用者を開拓することもできたが、定期的に利用されていたケースが中止になることも多く見られ、稼働率 57.0%で、目標の 75%を大きく下回る結果となったが、新規加算項目として看護体制加算Ⅲ・Ⅳを整備することが出来た。今後は地域の居宅介護支援事業所との連携強化を図るとともに、緊急ショートに対しても柔軟に対応し、目標に向けて稼働率向上を目指していく。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

リスク委員会を中心に身体拘束廃止、不適切ケア防止への意識向上に努めた。身体拘束については解除に向けて様々な職種と連携しながら取り組みましたが、解除に至らず一部解除にとどまっている。

30年度は倉敷市真備町における豪雨災害の被災者に対する福祉避難所としての受け入れを行った。

消火避難訓練においては、回数としては少ないが行うことができた。

## 平成 30 年度 事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

「その人らしさを大切に」を目標に掲げ、ご利用者の望みは何か、普段の生活で望みを聴きだし意思を尊重したサービスの提供を行った。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

運営推進会議を通じて地域の方やご家族との交流を深めた。30年度は地域の行事が中止になることも多く地域の方との交流があまりできなかった。また、社会貢献活動に対しては具体的に取り組むことが出来なかったのが今後の課題の一つである。

- ・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修を行い、職員の専門的知識のレベルアップを図ることが出来た。

一方で、外部研修に参加する機会が減少したため、他の施設で行っている取り組みなど学べる機会が減ってきている。

実習生を受け入れることで、実習生担当になった職員も実習生の対応や反省会などを通してともに成長することができた。

- ・人が活きる職場環境を整備する

職場環境の改善を目的として職員に対するアンケートを行い、働き甲斐のある職場環境整備に努めた。

- ・安定した経営を継続する

円滑な入居対応を図ることで前年度より 1.8%稼働率が増加し 96.0%となり、目標である 95%を達成することができた。引き続いて経営安定のために稼働率向上を目指す。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

リスク委員会を中心に身体拘束廃止、不適切ケア防止への意識向上に努め、安心・安全・快適な生活環境をめざし、居住空間の環境整備に努めることで介護事故の減少に結び付けることが出来た。

(別紙1)

○個別外出・行事について

	従来型特養 3 階	従来型特養 4 階	地域密着型特養
4 月	お花見 おやつづくり	お花見 個別外出 (2 件)	お花見 (地下・種松山) おやつづくり
5 月	一時帰宅 カップめん会 個別外出 (3 件)	個別外出 (3 件)	個別外出 (6 件) おやつづくり
6 月	おやつづくり 個別外出 焼きそばパーティー	個別外出 (4 件) そうめん流し	個別外出 (5 件) そうめん流し おやつづくり
7 月	そうめん流し 花火	個別外出 花火	個別外出 うどんづくり カレーパーティー おやつづくり
8 月			おやつづくり
9 月	ピザパーティー	個別外出	個別外出 (2 件) おやつづくり
10 月	一時帰宅 個別外出 映画鑑賞会	個別外出 (2 件) ミニ運動会	個別外出 (10 件)
11 月	鍋パーティー		さんま焼き 個別外出
12 月			個別外出
1 月	施設内初詣	施設内初詣	施設内初詣
2 月	節分	節分 カラオケ大会	節分 食事会
3 月			個別外出 (7 件)

○地域との交流

- ・福田南町内会夏祭りへの参加→30 年度開催中止
- ・福田公民館文化祭への参加 (作品の出展) →30 年度開催中止
- ・クリスマス会でのゆりかご保育園との交流→開催中止
- ・瑜伽山 敬老感謝祭

○稼働率について

	平成 29 年度		平成 30 年度	
	従来型特養	地域密着型特養	従来型特養	地域密着型特養
平均稼働率	<b>94.4%</b>	<b>94.2%</b>	<b>94.5%</b>	<b>96.0%</b>
退所者人数	12 名	6 名	7 名	4 名
入院者人数	28 名	15 名	27 名	11 名
入院日数	945 日	349 日	790 日	241 日
短期入所稼働率	<b>57.2%</b>		<b>56.9%</b>	

## I 入所者の状況

### 【入退所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	3	2	0	5	1	2	0	1	0	0	1	1	16
退所者	1	0	2	1	2	1	0	0	1	1	2	0	11

### 【介護度別入所者延べ人数】

従来型(50)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護2	30	31	18	19	31	30	31	30	31	31	28	31	341
要介護3	332	372	353	321	318	320	275	180	186	197	221	248	3323
要介護4	469	504	506	545	550	524	602	637	682	713	562	624	6918
要介護5	570	570	510	584	631	629	627	613	634	569	544	558	7039
稼働率	0.95	0.97	0.94	0.91	0.95	0.96	0.95	0.94	0.95	0.96	0.95	0.93	0.945

地域密着型(20)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	30	31	30	31	31	29	30	30	31	31	28	31	363
要介護3	221	236	201	217	212	210	217	180	186	186	158	155	2379
要介護4	120	124	120	146	147	120	124	149	155	186	168	155	1714
要介護5	187	201	210	201	217	210	217	240	248	217	178	233	2559
稼働率	0.93	0.95	0.94	0.96	0.98	0.95	0.95	1	1	1	0.95	0.93	0.96

注)入所者数は、医療機関への入院者は除く

### 【要介護度】

平成31年3月31日 現在

	1	2	3	4	5	平均要介護度
従来型	1	1	8	22	19	4.12
ユニット型	0	1	6	5	8	4.00
合計	1	2	14	27	27	4.08

### 【面会状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
平均面回数	3.9	4.8	4.8	4.9	4.8	4.2	4.5	5.1	5.7	5.9	5.9	5.8	5.4
〃延べ人数	148	142	165	165	154	153	138	154	169	197	193	178	

## II 短期入所(ショートステイ)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用人数	25	24	27	27	29	27	27	23	25	24	21	26	25.4
利用延べ日数	337	337	329	328	329	312	303	321	285	265	255	338	311.6
人数/1日	11.23	10.87	10.97	10.58	10.61	10.4	9.77	10.7	9.19	8.55	9.11	10.9	10.2
平均介護度	2.60	2.79	2.74	2.96	2.69	2.70	2.74	2.91	3.00	2.83	2.76	3.00	2.81

## 平成 30 年度 事業報告

在宅支援部  
ケアハウス オパール

- ・ 利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者に行きたい場所や食べたい物などの希望を聞き、行事に反映し計画・実施した。

また日常の要望などに自立支援できるよう声掛け・見守りなど臨機応変に対応した。

- ・ 人が活きる職場環境を整備する

行政の担当者や他の事業所の職員と交流を図りながら、情報収集を行った。

- ・ 安定した経営を継続する

7 月末から満床状態が続いており安定しているが、要介護状態も重度化してきており、利用者の状態や体調の変化があれば、早期にケアマネジャー・家族・かかりつけ医などと連携を図り、少しでも長く自立した生活ができるよう支援を行う。



## I 入居者の状況

### 【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	120	124	120	127	155	150	155	150	155	155	139	124	1674
女性	270	279	270	279	310	300	310	300	310	277	252	300	3457
合計	390	403	390	406	465	450	465	450	465	432	391	424	5131

### 【退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 【年齢構成】 平成31年3月31日 現在

年齢	60～70歳	71歳～80歳	81歳～90歳	91歳以上	合計
人数	1	2	9	3	15

## II 介護状況

### 【要介護度】 平成31年3月31日 現在

介護度	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	2	0	1	4	7	1	0	0	15

### 【介護サービス利用状況】 平成31年3月31日 現在

介護サービス	ホームヘルプサービス			デイサービス	デイケア	福祉用具 レンタル
	生活援助	身体介護	介護タクシー			
利用人数	7	3	6	9	2	10

## 平成 30 年度 事業報告

在宅支援部  
デイサービスセンター オパール

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

オパールに来ることを楽しみにするだけでなく、その活動が在宅生活の活力となるよう、個別ケアを重点に継続した支援を行っている。カラオケ機器の効果的な活用により、利用者が楽しみ・喜びを感じられる活動の手段が増え、満足度向上につながられている。

また、情報共有を密に行い、ご家族のご意向に応えられる支援を常に心掛けて行っている。

### ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域活動（ふくふく堂・児童発達支援センタークムレの園児受け入れ等）に対して、積極的に職員が参加し、地域との交流に努めた。

### ・優秀な福祉人材を育成する

施設内外の研修へ積極的に参加することで、認知症に対する理解をより深めるなど人材育成に努めた。職員同士が連携することの重要性や根拠のある介護の理解を深めることを重点目標として、ミーティングなどで相互理解を深めた。

また、研究発表に取り組み、「中国地区老人福祉施設研修大会」で発表し、「全国老人福祉施設研究会議」への推薦を受けた。

### ・安定した経営を継続する

稼働率向上を意識した運営を行い、月平均稼働率は 61.8%と前年度の 60.1%と比較して増加した。

今後、稼働率向上を目指す為、機能訓練加算の導入に向けた取り組みを行うことが課題として挙げられる。

### ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

法令を遵守するために、情報収集と相談を密に行いながら、業務管理体制の構築を継続的に行っている。

介護事故に対して、ひやりはっとの活用は継続して行っているが、病院受診を伴う事故が 1 件あった。原因や対策について職員間で話し合う機会を持ち、チームとして再発防止に努めた。

## I 利用者の状況

### 【利用状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	3	3	4	4	2	0	0	9	7	3	1	2	38
要支援2	2	2	0	0	0	0	9	2	3	2	1	1	22
要介護1	105	108	105	106	96	80	92	107	130	124	123	122	1298
要介護2	156	167	160	170	188	160	174	162	154	147	157	184	1979
要介護3	28	37	34	35	29	40	58	34	12	5	15	18	345
要介護4	21	21	22	14	6	0	8	15	20	9	13	13	162
要介護5	17	18	17	17	11	12	14	10	0	0	0	0	116
合計	332	356	342	346	332	292	355	339	326	290	310	340	3960
営業日数	21	23	21	22	22	20	23	22	21	20	20	21	256

### 【年齢構成】 平成31年3月31日 現在

年齢	40～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	1	2	3	17	11	34

### 【要介護度】 平成31年3月31日 現在

介護度	要支援1	要支援2					
人数	1	1					
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
人数	11	17	3	1	0	34	

## 平成 30 年度 事業報告

在宅支援部  
オパール居宅介護支援事業所

- ・ 利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者が入院される際は「医療・介護連携シート」を活用し、速やかに病院に必要な情報を提供している。退院に際しては、病院の退院前カンファレンスで他機関と連携して支援を行っている。身体状況の変化を伴う入院の場合は、退院後の生活がイメージしにくいこともあり、介護者の不安も大きい傾向にあるため、退院後に生活する場(在宅か施設)に応じた具体的な提案を行っている。

- ・ 地域福祉の拠点となる活動を実施する

訪問、会議を通じて地域での暮らしや、民生委員との関わりも見えてきたが、地域の特徴や活動の把握が十分とは言えない状況であるため、活動の場を創る、繋げることを意識した関わりを心掛け把握に努めた。

- ・ 人が活きる職場環境を整備する

医療系の研修・勉強会に年 10 回参加はできたが、今後は参加後の情報共有をより効果的に行うことで成果を高める必要がある。

- ・ 安定した経営を継続する

平均介護度は、要介護 1.8(予防含まず)。介護予防は総人数の 15%と昨年度より 5%減少している。認定結果、要支援から介護になる傾向もあるが、要介護 1~3 の状態で在宅生活を継続できるよう支援しているが、身体状況の変化で施設入所、長期入院の場合がある。

病院から退院支援の依頼や相談も増え、月平均稼働率は 73.9%と前年度の 72.1%と比較して向上している。

## I 利用者の状況

【年齢構成】 平成31年3月31日 現在

年 齢	～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合 計
人 数	3	5	9	33	13	63

【要介護度】 平成31年3月31日 現在

介護度	介護予防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	10	19	25	7	2	0	63

【月別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護給付	50	51	53	54	53	54	51	53	52	55	51	50	627
介護予防	9	8	7	7	8	7	8	6	7	7	7	6	87
総合事業	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	34
計	61	61	62	63	63	64	62	62	62	66	62	60	748

## II サービス利用状況

平成31年3月31日 現在

種 類	訪問介護	通所介護	短期入所	福祉用具貸与	その他	合 計
人 数	16	31	7	31	34	119
うち淳邦会利用		9	3			12

## 平成 30 年度 事業報告

在宅支援部  
福田高齢者支援サブセンター

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

電話相談や訪問活動を通して個人の相談を受ける時に、介護保険サービスの利用だけを考えず、挨拶や声掛けなどのつながりも含めて、地域との関わりをどの程度持たれているかも、話のなかで聞き取りができるように気を付けた。介護保険などのサービスを利用することで今までの地域の方とのつながりが薄れてしまわないよう、注意しながらサービスなどを提案し、地域の中での生活が続けられるような支援を行った。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

民生委員や愛育委員、老人会の総会などに毎年参加させていただき、水島地区全体の高齢者支援センターでPRと活動状況の報告などを行っている。

介護保険や福祉サービスの利用は困りごとができた時に「相談するところが分からない」と言われることが多い。福祉の相談窓口としてのPR不足ということもあるが、必要としていない時の情報はなかなか耳に残らないということもあると思われる。福祉の相談窓口という前に、「どこに相談すればいいのか？」という初めの声をかけていただけるよう、地域の活動などに定期的に参加を行った。

## I 総合相談事業等実績報告

		電話	来所	訪問	その他	合計
介護予防事業		0	0	0	0	0
総合事業		0	0	0	0	0
予防給付		0	0	0	0	0
権利擁護		0	0	0	0	0
高齢者虐待	身体的	0	0	0	0	0
	経済的	0	0	0	0	0
	精神的	0	0	0	0	0
	性的	0	0	0	0	0
	介護放棄	0	0	0	0	0
福祉相談・手続代行		26	17	40	0	83
介護保険・手続き代行		9	9	6	0	24
健康・医療		21	14	32	0	67
高齢者以外を対象		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
合計		56	40	78	0	174

## 平成 30 年度 事業報告

在宅支援部  
グループホーム ひなぎく

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

食事については、献立の立て方や提供の仕方を、管理栄養士を含めて話し合うなど、一人ひとりの状態に合った提供を行った。工夫した行事食やおやつ作りは、家族会や運営推進会議などで参加した方にも食して頂き、ひなぎくの食事について理解を深めていただく機会とすると共に客観的な感想を聞くことで食事提供への参考とした。

利用者担当職員から毎月郵送する家族へのお便りや、家族会・面会時に行う個別でのお話しを通じて、一層の情報交換を重ね、ケアプランに活かす等、これまで以上のサービスの提供に努めた。

### ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域の活動の中心となる担当者を設けたことにより、地域交流が身近なものになった。施設内で実施している運営推進会議を2か月に1度行っているが、意見がもっと頂けるよう内容を工夫する必要があると思われる。

また、認知症マイスター研修の実習を受け入れることにより、地域との繋がりが広まり、地域が求める認知症理解の重要性とその対応を改めて考えることが出来た。

### ・優秀な福祉人材を育成する

施設内外研修に積極的に参加することで、介護知識・技術などの習得につなげ、日々のケアに活かすことができた。2か月に1度、定期的開催する身体拘束・虐待防止の勉強会を通じて、入居者への接し方に変化がみられた。

### ・安定した経営を継続する

入居者の退居後には、直ちに次の入居が出来るよう他部署との連携を図り、稼働率は90.7%と前年の86.8%から向上した。食材選びや節電に努めるなど、経費削減を全体で心がけた。

### ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

業務連絡ノート等を活用し、統一されたケアとなるよう努めた。事故や苦情に対しても、対応・原因・反省を皆で検討し、予防に活かした。

個々の職員が、何らかの委員や役割を担当することで責任感が備わったと思われ、互いに協力も出来た。



## I 入居者の状況

### 【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	60	60	60	60	62	60	31	31	31	31	28	31	545
要介護2	182	204	210	210	170	150	186	186	213	186	140	137	2174
要介護3	152	165	189	189	186	206	175	175	208	243	280	302	2470
要介護4	30	30	30	30	31	30	57	57	62	62	28	31	478
要介護5	60	62	60	60	62	26	30	6	0	0	0	0	366
合計	484	524	510	510	511	471	455	455	514	522	476	501	5933
人数/日	16.6	17.8	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	17.6	18.0	18.0	18.0	17.0	16.1

注)入居者数は、医療機関への入院者は除く

### 【要介護度】 平成31年3月31日 現在

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
人数	1	7	8	1	0	2.63

### 【年齢構成】 平成31年3月31日 現在

年齢	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	3	10	4	17

## 平成 30 年度 事業報告

育成推進室

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

要望が高度化、多様化しているなか、高齢者福祉施設職員として求められる「やり方」と「あり方」を常に念頭に置いたサービスを提供できるよう働きかけた。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

「ふくふく堂」を福田南公民館で開催し、地域の方々に参加していただいた。

また、地域福祉に法人としてどのように貢献することができるのか、地域を支える活動を行う方々との顔の見える関係作りと情報収集に努めた。高齢者支援センターを中心に実施している認知症マイスターの実習受け入れを積極的に受け入れ、関係を構築することが出来た。

- ・優秀な福祉人材を育成する

法人の求める人材を獲得し、成長できる職場環境を整えることを目標に取り組んだ。

成長につながる機会（施設内・外研修、委員会活動、資格取得支援、研究発表）を創出、活用して育成をすすめた。

- ・人が活きる職場環境を整備する

それぞれの職員が持つ特性を活かし、適材適所の役割を担ってもらうことで前向きに働ける環境作りをすすめたが、人員体制が整わず、職員への負担が増加する状況であった。人材確保に努め、やりがいの持てる職場環境作りを進めていく必要がある。

- ・安定した経営を継続する

利用者の確保が困難になってきている現状のなか、選ばれる法人となるよう積極的に情報を発信し、ブランドイメージを高めることを目的とした活動を行った。

経営状況の理解を深め、「サービスの質と経営を両立」を意識した運営を行った。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

職員一人ひとりが自らの役割を担ううえで把握しておくべき法令を理解することを目指し、多方面から情報を収集し、伝達、共有することを心掛けた。